

きゅうり・わかしの管理

昨年はきゅうり黄化えそ病の発生により防除対策への御協力を頂きまして誠にありがとうございました。また封じ込めができておりませんので、この冬を目標に更なる御協力を頂きますようよろしくお願い致します。

昨年は、全体的には好天候に見舞われたものの収穫量は伸び悩みました。抑制については成り込み後の草勢低下が著しく見られ、促成につきましては前半が草勢が旺盛になり、落ち着くまでに時間がかかった状況でした。

季節予報では1月は例年並みで晴の日が多いようです。その分冷え込みも厳しくなる可能性がありますので、温度管理に注意しましょう。省エネ対策も確実に行なって下さい。

【促成胡瓜について】

力枝の伸び具合や、雌花の開花及び収穫節位を見ながら管理を行っていきます。遮光を行いなから連続着果が見られるようであれば摘果作業を行ないましょう。

果実の肥大が遅れないように早朝加温を含め午前中の温度確保に努めて下さい。つる下ろし作業が遅れないようにしましょう。灌水追肥はこまめに行い、肥料切れにならないように注意しましょう。早めのカンザシ症状対策を行って下さい。

【半促成胡瓜について】

毎年側枝の出が悪い方が見られます。親枝の着果が多い場合には、親枝の摘芯位置を下げるか摘果を行ないましょう。午前中の温度・湿度を確保し、灌水量は十分に行いましょう。逆に力枝が伸び急ぐ場合には着果負担をかけ、勢いのある枝については急いで吊り上げないようにする場合によっては力枝の摘葉も考える。

親葉の摘葉も採光性を考慮し摘葉していきましょう。灌水・追肥についても促成同様こまめに行い肥料切れがでないようにする。

厳寒期になりますと肥料の吸収が鈍くなります。地温が低いとさらに吸収は悪くなりますので、地温確保を行ない速効性肥料の使用も行っていきましょう。

また、日照時間が短い曇雨天時での草勢低下は回復が遅れます。葉面散布と定期的な発根剤の使用を行い草勢の回復に努めましょう。

葉面散布剤	パワフルグリーン2号	500〓1000倍
	ベストII	500〓1000倍

発根剤	新RBパワー・夢	10a/2〓5畝
-----	----------	----------

【病害虫について】

葉が長時間濡れているとべト病の発生要因になります。また、多湿条件下ではその他の病気の発生にもつながりますので加温機送風・循環扇を活用し湿度を抜いていきましょう。また、昨年はつる枯れ病の発生が多く見られました。用心の為1月にはつる枯れの防除も行なっておきましょう。

病害虫ともに微生物農薬の活用も効果的です。

【黄化えそ病について】

黄化えそ病の発生もだいぶ少なくなってきましたが、まだ抜根状況は続いている状況です。春先につなげないためにも、早期抜根の徹底をお願い致します。

スリップスのローテーション防除も行なっていくてください。

粘着板は取替え時期になっていませんか？粘着部分がなくなっているようであれば張替え時期です。確認していきましょう。

果樹園の管理(1月)

2010年は大変お世話になりました。2011年も宜しくお願ひ致します。

1月の果樹管理は以下の通りです。

1. 日向夏の管理

1) 土壌改良の実施及び有機質施用

・土壌改良については土壌分析を実施してから行います。実施の際は土を果樹農産課までお持ちください。

目安：苦土セルカ2号 100kg/10a

・日向夏は強勢にするほど着果性が良くなりますので、必ず有機質を施用し、土作りを行います。

目安：完熟堆肥 2t以上/10a

※施用の際は、広げずに固めて置くと細根の発生が良くなります。

2) 病害虫防除

2月より収穫となりますので、病害虫防除は極力実施しないで下さい。

発生した場合は果樹農産課(77-2216)までご連絡ください。

使用目的	使用薬剤	使用倍数	使用時期	使用回数
後期落果防止	マデック	3000倍	着色期 収穫20日前	2回まで
ハダニ カイガラムシ類	ハーベストオイル	60〜80倍	12月〜1月	1

2. 落葉果樹類の管理について

1) ハウスぶどう

樹液の流動が止まった1月上旬より剪定を実施して下さい。また、剪定時は発芽後の樹形を考えて誘引も実施して下さい。

2) キウイフルーツ

1月中旬に剪定を終わらせます。

中果枝、長果枝を主体に切り返しと間引き剪定を併用して行います。3年以上の側枝になると結果部がはげ上がり、また負け枝の原因や衰弱枝になりますので、充実した長果枝に更新します。

昨年台風により、新芽が発芽した園地がありました。剪定時に枯れこんでいなければ利用できますが、枯れこんでいる場合は通常の剪定を実施して下さい。

※農薬の使用については、使用基準(摘要作物、使用回数、使用回数、収穫前使用日数、散布量等)を守って使用してください。改正農薬取締法が施工され、使用者の自己責任となりますので、少しでも不明な点がありましたら担当者にご相談下さい。

連絡先：果樹農産課 電話 77-2216

露地野菜生産者のみなさまへ

平成22年は近年の異常気象とも昨年と同じくやや違う気象で、影響がなく豊作だった作物もありましたが、景気低迷の影響を受け、野菜の値段がかなり落ち込み販売苦戦となりました。生産農家でも大変な苦労があったと思います。今後はどんな気候になるのか予測も立てづらい状況ですが、異常気象に負けないような技術の向上と収量アップ、また販路拡大を目標に、露地野菜の生産販売を行っていきたいと思います。平成23年もどうぞよろしくお願い致します。

さて、春作の準備・作付が始まります。春は長雨が考えられますので作付は排水のよい圃場を選び、排水溝を作り、水のはけ口を忘れないようにして下さい。

△栽培管理について▽

・白ネギ・

軟白しにくくなっていますが、こまめに土寄せを行うようにし、軟白部分を多くするように心がけてください。スリップスの食害痕は品質低下の原因となります。

・人 参・

収穫・出荷後の貯蔵中での腐敗が大変多いため、収穫を行う場合は、雨上がりや土壌が乾燥していない場合には行わないようにして下さい。まだ収穫できない人参については首や肩のあたりが土から出ていると日焼けをし、品質低下や腐敗の原因となりますので必ず土寄せを行うようにして下さい。発病枯死した葉などはなるべく圃場外にて処理を行って下さい。

・春バレイシヨ・

種芋は30〜40g前後に切り、乾燥させてから播種を行って下さい。播種後の湿害により種芋が腐敗する場合がありますので水はけの良い圃場を選び、必ず排水溝を作り、水がはけるように出口も必ず作るようにして下さい。保温資材やワラなどをマルチの上にかけておくと防寒対策になります。

※契約販売の種子は1月下旬入荷予定となっております。種芋の確認を必ずお願い致します。

・水田ゴボウ・

保温材の被覆後にアブラムシの発生が見られます。保温材が風によつて飛ばされるなど、ゴボウの葉が外に出ているとアブラムシが付着すると考えられますので、飛ばされないようにしっかりと押さえてください。播種から4ヶ月後が収穫予定となります。

・簡易施設野菜・

コナガ・アオムシ・ヤサイゾウムシ等の発生による食害痕は品質低下となりますので予防策を十分行って下さい。粘着シートは害虫の通る場所に設置するようにして下さい。

・施設人参・

トンネル栽培では生育が不揃いとなりやすいので地温とトンネル内温度を適温に保つようにして下さい。発芽後は、25〜28℃で管理し、30℃以上になったら換気を行って下さい。換気の遅れは裂根の原因にもなります。トンネル内での病害虫の発生が見られますので、

木酢液の定期的散布や除草作業の徹底などを行って下さい。(トンネル内温度25℃前後の多湿条件で発生)

・レタス・

生育適温が15〜20℃で、10℃以下、25℃以上では生育緩慢となります。温度管理が難しくなりますが、換気しだいで収量が大きく左右されますので、トンネルやビニールの開け閉めは必ず行ってください。また、ハウスでの栽培では、高温になると変形しますので、温度管理に注意してください。

収穫をされる場合は、レタスの温度が高いとしおれ等、品質が悪くなりますので、日中の収穫を避け、収穫したものは直射光線に当たらない涼しい場所に置いてください。

・千切大根・

シーズンを迎えました。品質維持のために、できた千切大根は早めに出荷してください。異物混入が問題となっておりますので、十分注意してください。異物の主なものは洗機機のブラシ、わら、ひも、竹くず、木の葉、ビニールシートの破片、髪の毛などです。大根の調整もしっかり行ってください。

・甘藷苗・

日中の換気ができていないと軟弱になり、寒さが来たときに霜傷みしやすくなりますので、朝晩の換気は確実に行ってください。また、乾燥するとアブラムシやダニが発生します。人の手による害虫の持ち込みが原因の一つでもありますので、苗を管理する際は、害虫の出ている圃場から持ち込みしないよう注意してください。(くつ、ズボンのすそなど)

・病害虫対策・

ハウス・トンネル内など、温度が保たれる場所では害虫の発生がみられ、例年より気温が高い為、ヨトウムシなどの発生がまだ見られます。予防策を必ず徹底するようにしてください。

アブラムシ ↓ シルバーテープの設置

(キラキラ光る事で寄せ付けない)

ダニ・スリップス ↓ 葉に付きますが、樹勢が良ければ生育を阻害

されることはありません。かん水ができる圃場であれば、かん水を行う事により発生がおさえられますのでかん水を行って下さい。

コナガ類 ↓ 粘着シートを使用し、誘引捕殺して下さい。

作物に近い位置に設置すると効果的です。

春作の作付を計画している方は土壌分析を行い、分析結果に基づき堆肥や苦土石灰等の土壌改良資材の投入を行って下さい(※)。特に雨よけハウスでは、肥料過剰がみられますので、必ず行うようにして下さい。完熟堆肥を使用することにより作物の生育や品質が向上しますので播種または定植30日前までには施用を終わらせておくようにして下さい。元肥は有機質肥料を使用しますので播種又は定植の7〜10日前までには施用して下さい。

※土壌分析を行う事により、養分過剰や不足による障害を防ぎます。土壌分析は乾燥した土で分析に2週間ほど時間がかかりますので早めに提出して下さい。提出先は果樹農産課又は開発センターまで。また、収穫出荷前に栽培管理簿の提出をお願いしていますが、産直・直売所に出荷を行う方は果樹農産課へ提出をお願い致します。開発センターへ直接提出を行うと管理内容の点検が出来ませんので必ず果樹農産課で提出を行って下さい。

連絡先：果樹農産課 77-2216

△お知らせ▽

作付検討会を行いました。

12月10日(金) 平成23年度 春バレイシヨ作付検討会

計画面積 デジマ2.5ha メークイン3.5ha

12月16日(木) 平成23年度 白ごぼう作付検討会

計画面積 3.5ha

作付検討会に出席されていない方は、販売契約書の提出を早急にお願致します。

契約作付けに取組みを希望される方は必ず連絡をお願い致します。

◎これからの作付検討会開催予定品目く春人参、甘藷(宮崎紅・黄金千貫)、白ねぎ